

目黒稲門会会報



(題字: 眞仁田 勉 初代会長)

第108号 2025年9月

事務局: 〒153-0065 目黒区中町1-33-2 Tel: 03-6789-6549

発行人: 川崎 秀一 編集長: 細谷 清 事務局長: 伊東 佳行

ホームページURL: <http://me96tomon-waseda.la.coocan.jp/>

2025 年定時総会開催

2025 年 7 月 6 日 (日)、ホテル雅叙園東京にて第 26 回定時総会が開催されました。

当日は早稲田大学より加藤邦治・東京都 23 区地域担当部長にご出席いただきました。出席者総数は 50 名でした。



司会: 上田あや幹事

【総会】

午後 4 時、司会の上田あや幹事が開会宣言。まず川崎会長より挨拶 (別掲) があり、続いて加藤邦治・東京都 23 区地域担当部長よりご挨拶とともに、早稲田大学のトピックスとして

2050 年に向けた「Waseda Vision 150 and Beyond」、早稲田スポーツの活躍、校友会による在学生支援などのご紹介がありました。



川崎秀一会長



加藤邦治担当部長

その後、総会の議長に石橋義久幹事が選出され、以下の議題が報告・提案され、すべて承認されました:



総会議長・役員

1. 2024 年度事業報告
2. 2024 年度決算報告および監査報告
3. 2025 年度事業計画 (案)
4. 2025 年度予算 (案)、5. 2025 年度役員人事 (案)

【川崎会長挨拶】

皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、目黒稲門会総会にご出席頂き有難うございました。

今回も、ご多忙の中来賓として、早稲田大学から東京都 23 区地域担当部長の加藤邦治様にご出席を頂いております。改めて御礼を申し上げます。

さて、今年も 4 月 13 日に早慶レガッタが隅田川で、29 日にはアメリカンフットボールの早慶戦が駒沢競技場で、そして 6 月初めに神宮で野球の早慶戦が開催されました。特に神宮の野球はリーグ優勝がかかる大事な試合という事でスポーツ観戦部会に多くの参加者を得て応援、紺碧の空と、校歌を熱唱しました。因みに、三つの早慶戦とも早稲田が圧勝しました。

さて、目黒稲門会も 26 年目を迎えており、お陰様で部会活動もそれぞれの部会長の努力により順調に開催されております。一方ではこれまで各部会は部会長一人の頑張りで運営が行われてきたと言う現実があります。又、幹事長や事務局長の仕事も、一人の力や頑張りによって支えられて来ました。

しかし、もはや、各部会長共に徐々に高齢化して、昔の様に一人で頑張る事は難しくなって来たのが昨今の状況です。又、近年入会した方々は仕事の一線を引かれていても、まだ仕事を持っていたり、趣味や社会貢献活動に努めておられる方も多いようで、稲門会の活動にのみ積極的に時間を割いて参加出来ないのが現状であります。従って、限られた時間をごく限られた部会に参加するのが精いっぱい、いわずや部会活動を運営する事や責任者になる余裕はないと思われまふ。

このような状況の中で、如何に目黒稲門会の運営の持続性を担保して行くかが大きな課題となっております。この様な現状認識を役員間で共有して、如何に

したらこの問題を解決できるのか議論を始めたところであります。議論の結果は、皆様にもお伝えしたいと考えております。

今日、会員の皆様にもこの状況を共有して頂きたいここにお話を致しました。もちろん、突然今の部会が運営されなくなることはありませんので安心して、お好みの部会活動には積極的に参加頂く事をお願い申し上げます。又、周りの知り合いで、校友がいれば、是非、目黒稲門会の楽しさをお伝え頂き、積極的に入会をお誘頂ければ幸いです。特に65歳を中心とした世代の会員が増えてくれる事を期待しております。

最初から、堅苦しいお話になってしまいましたが、本日は総会終了後のお楽しみとして講演を予定しております。江戸城を築城した太田道灌の子孫であり又校友であります、太田資暁（おおたすけあき）様をお願いしております。是非、講演をお楽しみください。

又、目黒雅叙園をホームページとして総会や新年会を開催して参りましたが、残念な事に今年の秋で雅叙園が休館となるとの事です。新年会は別の会場を探さなければなりません。名残惜しいのですが、これも時の流れの変化の一つとして受け入れざるを得ません。本日はこの会場が暫しお別れと言う事で存分にお楽しみ頂きたいと思えます。

最後になりますが、今日お集りの皆様のご健康とご活躍を祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は有難うございました。



講演：太田資暁様

【懇親会】

懇親会では、まず校友の太田資暁様（NPO法人「太田道灌顕彰会」理事長、認定NPO法人

「江戸城天守を再建する会」会長）より、「江戸の成り立ちと江戸城天守再建」と題するご講演をいただきました。

その後、小関純子会員の発声により乾杯、歓談へと移りました。続いて、ボランティア部会による募金のお願い、新入会員のご紹介、早稲田祭2025運営スタッフによる開催アピールが行われました。アトラクションとしては、「音楽を楽しむ会」による楽しい演奏が披露され、会場を盛り上げました。

食事を楽しみながら、普段なかなか会うことのない仲間たち



乾杯：小関純子会員

との懇談も会場のあちこちで花を咲かせていました。



ボランティア部会募金



新入会員紹介：福井佳奈子会員

早稲田祭2025アピール



音楽を楽しむ会の演奏



校歌斉唱 指揮：中西元樹幹事



中締め：市川亘幹事

盛会のうちに、中西元樹幹事の指揮による校歌斉唱、市川亘幹事による中締めで閉会となりました。



参加者集合写真

最後に、長年にわたり当会の新年会・総会を支えてくださったホテル雅叙園東京のスタッフの皆様、心より感謝申し上げます。

（事務局）

各 部 会 か ら の 案 内 ・ 報 告

俳句部会

第179回「俳句部会報告」

開催日 2025年7月22日(火)

(順不同)

川井素山	^{おいぼれ} 老耄を止むる術なし百日紅
保井寶正	蚊遣香尽きて終われり写経かな
佐久間喬	花びらのごと枇杷を剥く見舞かな
丸山酔宵子	鮎の目が早く喰えよと身をそらし
吉田啓悟	想ひ出は香水の香りと共に消ゆ
青木英林	帰省後の祖母の気遣い蚊遣香
山本草風	神官も登山靴はき山開き
渡辺鯨波	亡き父の心の凹み簾寝椅子
原 晶如	窓少し開けて涼風聞きにけり
佐久間たか子	片陰にため息集めバスを待つ
中村双月	蚊遣香ゆつくり話す母なりし
菊地崇之	沁み渡るカトリセンコウ家の味 ^{うち}
永井正孝	風鈴の音も消へゆく午睡かな
泉 宗季	祇園会やそばふる雨に鐘の音

中原主宰の選んだ秀句と評

老耄を止むる術なし百日紅

年をとり年々衰えていく我が身と比べ、盛夏に百日も次から次へと咲き誇る百日紅の対比がうまい

神官も登山靴はき山開き

山開きの日、山の安全を祈って神職が祝詞をあげるが、足元は登山靴であった。原句は神官はであったがもの方が登山者に寄り添う気持ちがある

亡き父の心の凹み簾寝椅子

亡父が愛用していた長椅子の物理的な凹みと長年の心の想い(凹み)を詠んだ

蚊遣香ゆつくり話す母なりし

帰省して母と久しぶりに話す情景が見える

風鈴の音も消へゆく午睡かな

風鈴の音も消へゆくで眠りに入ってゆく様にかけているが、音のとすれば明確になる

俳句部会長 佐久間 喬

女性企画

「女性企画ランチ」から「女性企画」に新装開店してから、男性会員にも参加いただいたり、時間帯にも幅を持たせるなど工夫を重ねています。

今後も皆さんが参加しやすく、喜んでいただけるようなイベントを企画したいと思います。

今回は、昨年秋の公演に続いて、現役の早稲田大学教授にして、プロ級のミュージシャンでもある、松方正彦会員のライブを鑑賞しました。



松方会員と仲間のミュージシャン

5月9日(金) Velera 赤坂/1名参加

5月29日(木) 赤坂トナリテ/6名参加

伸びのある高音、豊かな声量、幅広い音域など、素晴らしいかったです。

脇を固めるピアノ、

ベース、パーカッションの演奏も見事で一同堪能しました。

また次回は、早稲田大学男子チアリーディングチーム「SHOCKERS」の公演鑑賞を予定しています。

「SHOCKERS」は、日本で最初の男子チアのチームで、現在はプロ野球などでも活躍。

早稲田大学在学中に「桐島、部活やめるってよ」で鮮烈デビューした朝井リョウ氏の2作目、「チア男子!!」のモデルにもなりました。

9月10日(水) 17:00開場、17:30開演。於：大隈記念講堂 チケット代無料 です。

女性企画世話人 三沢美奈子



参加者(演奏休憩中のスナップ)

ウォーキング部会

ウォーキング部会 第175回例会

佐倉城址公園と国立歴史民俗博物館を訪ねる

参加 9名

梅雨真っ盛りのはずだった6月19日(水)に京成佐倉駅に集合し、バスで5分ほどの国立歴史民俗博物館前まで行った。ここはもう佐倉城址公園の一面だ。バスを降りると、6月とは思えない30度を越える暑さ。ところが、城址公園の中は緑陰が多く3-5mほどの風も吹いていて、思ったより凌ぎやすい。駐車場の脇から、城址に続く木陰の道に入り、城址公園東側にある姥が池に向かう。目指すは、姥が池のはずれにある菖蒲園と紫陽花の群生だ。

菖蒲は、40-50cmほどの深さの濠に囲まれた畑の中に咲いていた。カメラで菖蒲を写そうと夢中になるが、道路脇に待ち構える濠にはまりそう。危ないあぶない。



黄菖蒲

菖蒲園の奥には紫陽花が咲き誇っていた。西洋紫陽花、ガクアジサイなどが入り混じり、中々の光景だった。菖蒲園の手前、姥が池は

蓮の葉でびっしり埋め尽くされている。昼下がりであったが、蓮の花が一輪、二輪と開いていた。



左・紫陽花



右・菖蒲畑と濠

姥が池から、本丸方向へと上がっていく。ここは平山城であり、自然の地形である山の斜面を巧みに利用した土塁や空堀が私たちを迎える。石垣のない珍しいお城である。それは良いが、低地の姥が池から、空堀を通して斜面を登り、本丸方面へと辿るのは、この暑さもあって辛かった。



姥が池の睡蓮

姥が池から登りきると三逕亭(三つの小径の交わるところに立つ茶屋)の前に出る。その先、本丸方面へ続く小径の入口両側に、等身大の銅像2体が出迎え

てくれる。幕末に、日米修好通商条約を結び、開国への道を開いた老中・佐倉藩主の堀田正睦侯とその交渉相手のタウンゼント・ハリス代理公使である。ここで記念写真をパチリ。



堀田正睦とハリスの銅像前で
後ろは二の門跡へ続く小径

城内への小道を辿り、二の門(当時の行政処だった二の丸の入口)跡を過ぎると、本丸跡の広大な広場に出る。本丸

跡を取り囲む一帯は、一面草原だが、周りには当時の土台だった石組みが残り、天守閣跡や、銅櫓跡、台所門跡などと分かる。

本丸跡を背に真っ直ぐ北に行くと椎の木門を通り、馬出し空堀に出る。ここは最大の空堀で長辺121m、短辺40m、深さ5.6mもあったそうだ。空堀を回り込むと、国立歴史民俗博物館(以下「歴博」と略)のカフェ脇に出た。

歴博は日本列島の歴史と民族を展示する、スケール大きい博物館だ。おそらく全部を見て回るには小一日必要だろう。第一展示室: 先史・古代、第二



生ガキと生ビールに満足した一行

展示室: 中世、第三展示室: 近世、第四展示室: 民俗、第五展示室: 近

代、第6展示室: 現代と別れている。

駆け足で見ても、一時間ほどの持ち時間では、第三展示室までが精一杯だった。その中でも第一展示室は先史・古代、つまり最終氷期の約3.7万年前に日本にやってきたホモ・サピエンスの暮らしぶりや、大陸との通交、縄文や弥生時代の生活の様子が分かりやすく展示されていた。

参加者は、それぞれの趣で冷房の効いた館内の展示を巡り、数少ないバスの時間に合わせて集合し、歴博を後にした。

京成佐倉駅前に戻り、目の前の居酒屋・庄屋に入った。丁度生ガキ1個100円のキャンペーン中だったので、これをあてにジョッキを挙げた。

ウォーキング部会長 吉野博明

オール早稲田囲碁祭奮戦記

—昨年引き続き連覇達成—

2025年6月7日日本棋院にて例年どおり第22回首都圏オール早稲田囲碁祭が行われました。過去目黒は第7回でAクラスBクラスのダブル優勝。また第17回ではDクラス優勝。第21回でCクラス優勝を果たしました。今回の目黒は大將保井氏、副將小岩氏、三將永田氏、四將狩野氏、五將市川亘の布陣でCクラス団体戦に臨みました。



クラス分けの基準はチーム全体の實力別です。Aクラスは最強クラスで、Bクラスが次、Cクラスへと続きます。そして



各クラスは四チームずつ振り分けられて三回戦を戦います。また個人が三連勝すると次年度は段級位を一つ上げなければなりません。そして個別の対局相手との段級位差はハンディをつけての対局となります。そのようにしてこの大会は各チームの實力差を年々調整してきました。

ところで、今回の最高段者は若手女流棋士の宇根川万里江九段で、彼女は国際アマペア碁選手権での優勝経験がありますが、今年の日本女流アマ名人戦では惜しくも2位でした。なお同大会で優勝した藤原彰子さんも早大卒だそうです。

目黒の一回戦目は白井・杉並チームでした。私の対局相手は昨年急遽目黒チームに編入されて大活躍された杉並の渡井氏でした。互先で終始私が優勢に運びましたが、終盤は例によつての私の大ポカで危うくなりました。しかし辛くも僅差で逃げ切りました。また目黒は4勝1敗でした。

二回戦目の相手は新宿・松戸チームです。私の対局相手は主催者である山住様の奥様で、昨年の冬の小大会において三子局（奥様が上手）で対局し私の勝利でしたが、今回は互先。打ち込みで模様を張らせない碁を打ち、結果は大勝でした。また目黒は4勝1敗でした。

三回戦目の相手は東村山チームです。対局相手は私より若い方で、私の上手で二子局の碁でした。

終始粘られましたが、相手の時間切れ負け、かつ中央に入ってきた黒石も死んでいました。目黒は5勝0敗でした。

結局、目黒はチームとしては三連勝でCクラスでは昨年に引き続き二連覇を果たしました。また、三連勝賞はABC合わせて全体で6人でしたが、そのうち4人は目黒でした。私も昨年に引き続き二回目の三連勝賞を受賞しました。

囲碁部会長 市川亘

ボランティア部会

ボランティア部会の部会長を小杉哲先輩から引き継がせていただきました新部会長の田添麻友（政経05年卒）です。改めまして宜しく願い致します。

ボランティア部会では、先日の総会でも募金にご協力に感謝申し上げます。お預かりした募金は毎年、目黒稲門会から

「目黒のサクラ基金」に寄付しております。

また、総会の5日後に「目黒川クリーンアップ大作戦」に参加しました。このイベントは目黒区と「目黒川上中流の会」「目黒川を豊かな生活環境にする会」が年に2回開催している目黒川両側の歩道のゴミ拾い活動です。



前日の天気は1時間で100ミリの大雨（気象庁が「記録的短時間大雨情報」を発表）でしたが、当日は晴れて気温も日ごろの酷暑が和らいだ中での活動となりました。小学生や町会さん、企業さんからも多くの参加者が集まっていました。

目黒稲門会も多くの方にご参加いただきました。

ボランティア部会長 田添麻友

旅行部会

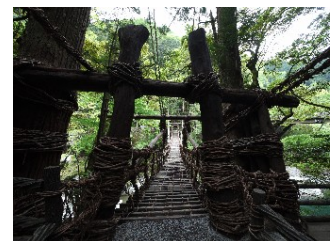
2025/10/28－30 四国旅行を予定

- ・日程：10月28日(火)～10月30日(木) 2泊3日
- ・四国4県ゴールデンルート3日間の旅
(四万十川・桂浜・祖谷のかずら橋・大歩危陰峡・金刀比羅宮)

- ・費用：一人当たり
69,900円

- (二人部屋利用)
一人部屋の場合：
81,900円

- (2部屋まで)
(申し込み等の詳細は
会HPをご覧ください)



祖谷のかずら橋
撮影・著者：Ippukucho

旅行部会長 井村正陽

会員の広場

10年振り、卒業59年目のクラス会

安居院文男（66年文）

結論

趣味や、運動を続けて、来年も、再来年も、90歳すぎまで元気に生きること。いい会でした。

2025年5月16日(金)12:00~15:00

高田馬場駅前の「ペキンカオヤータン高田馬場店」前回、最後に開かれたのは2015年10月18日、ホームカミングデーの日に、会場はやはり高田馬場でした。それから10年、新型コロナに翻弄された数年間を経て開催にこぎ着けました。北は北海道、南は九州から26名が出席されました。80歳を超えて体調を崩されたり、急用で来られなくなったり、逆に予定変更で出席した方もいての26人です！

卒業時は52人の、第一文学部哲学科心理学専修クラスでした。今は一学年200名以上いるらしいですが、当時は、男女ほぼ同数の仲良しクラスでした。1年から4年間同じ人間が集まっていたわけですから、小学校みたいなものでしょうか。集まったのも男女13名ずつ。

食事をしながら順番に近況報告。10年分、中には80年分の話を始める人もいて時間がいくらあっても足りません。歌うつもり都の西北も割愛でした。お店も、みんなの顔が見えるようにと、四角に囲んだテーブル配置に快く応じてくれ、1時間オーバーの3時まで使わせてくれた店長の李さん、スタッフに感謝でした。

先の返信ハガキで「LINEグループ」への加入、非加入の回答を頂きました。希望の方とはまずLINEで繋がる必要がありますので、後日携帯のショートメールで連絡させていただきます。

「次」の開催は、未定ですが、お身体の具合が悪い方は少しでも元気に、元気な人はそのまま元気で、またお会いしましょう。

昭和41年卒業心理学クラス会アンケートまとめ

無記名アンケートは、13項目。

26名中、男11、女13、計24名から回収できた。

1. 連れ合い：いる人：男7名、女7名。
いない人：男3名、女6名で男の方が3名少ない。
2. 趣味：ほとんど全員何かの趣味を持っている。
趣味のないのは、女1名だけだった。ご同慶の至り。

中身は、ゴルフや散歩、庭いじりが多い。読書、釣りも多い。石仏写真・弓道・俳句・日舞・鼓・スキー・TV・大谷観戦・料理・ちぎり絵と、多彩。

3. 健康法：ある人：男8、女9。ない人：男3、女4。
これは趣味とも重なるが、圧倒的に散歩が多い。
身体の衰えは、足からということだろうか。
水泳とか、筋トレ・スクワットというのもあった。
老人会のデイケアとかりハビリ、カラオケ、麻雀、は友人と楽しく過ごすということだろう。

4. 心配ごと：ある人：男7、女5。ない人：男4、女8。
男の方が心配性？ 身体の不調や、独身娘息子やら、子供の老後、誰が看取ってくれるかなど、なかには「心配してもしようがない」という気合いの入った人もいた。

5. 処方薬：みな結構長く飲んでいる。男は10名が飲んでいて、飲んでないは1名。
女はやはり10名飲んでいて、飲んでいないは3名。
病院のお世話になっていることも多いのかも。

6. サプリ：飲んでいない人が多い。
男女とも飲んでいる人は3名。あとは飲んでない。
7. 心理学専修で良かったか：男は良かった6名だが無回答5人はどういう意味なのだろうか。
女は11名が良かった。無回答は2名。友人ができた、仕事で役に立った、体裁がいいというのもあった。
良かったと思っている人が多いのは喜ばしい。

8. 学生時代に得た物が、あるは、男9、ない1、不記載1。女は、ある7、ない2、不記載が4。「友人」が多いが中には「伴侶」というのもあった。
「何かあったんだろうか」と哲学的なのもあった。

9. 記憶力：自信のある人はゼロ、「いい方と思っている」は男5、女4。「すぐ忘れる」とか「覚えたそばから忘れる」のは男6、女9。全体では「いい方」が9、「忘れっぽいと思っている」が15、年相応かも。

10. 何歳まで生きたいか。「わからない」は男3、女6。
男女とも最高齢は93歳。一番多いのは、91歳。
85以上が多いけど、すぐお亡くなりになりそうな人も少数。

11. 生きる自信：わからない人が圧倒的。神ならぬ身の知るよしもなしってところでしょうか。

12. クラス会にまた来たい：また来たい、男9、女11。
「毎回」来たいというのは4名。「来年」と「2年後」あわせて16名。
今回は10年ぶりだったからかもしれないが、皆さん喜んでくれたようです。

早く次やらないと、危ないと思っているんでしょうか。
13. 今は幸せか？：ほとんど全員が幸せと答えたのは、やっぱり生きるっていいことなんだろうね。

入会して1年



齊賀丈暁(11年 政経)

目黒稲門会の皆様こんにちは。

2011年政治経済学部卒の齊賀丈暁(さいがたかあき)と申します。

当会に入会させていただいて1年半弱が経ちました。現在ボランティア部会に所属いたしております。あらためまして、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、突然ですが、この“齊賀”という苗字、皆様は今までに会われたことがありますでしょうか。私は親戚以外にまだ出会ったことはないのですが、ネット情報によると(笑)、全国で30人~60人程度しかいないそうです。また“雑賀”の異形であるとの記載もあり、戦国時代に活躍した紀伊国の鉄砲傭兵集団雑賀衆に由来するものかも(?)という話も一説にはあるようです。

前置きが大変長くなりました。私は6歳の時に世田谷から当地目黒に移り住み、緑ヶ丘小学校、第十中学校、そして早稲田大学高等学院へと進学しました。小学校時代は地域の少年野球チーム“自由が丘ドジャーズ”で野球に熱中し、中学校、そして高校の部活でも野球を続けました。学院の甲子園出場は全OBの悲願かと思いますが、硬式野球部の後輩にあたる山縣秀選手が現在日本ハムファイターズで頑張っている姿を見られるのは嬉しい限りです。大学では当時流行していたピーター・F・ドラッカーの研究をし、卒業後は金融業界に身を置いて現在社会人15年目。妻と4歳になった息子の3人家族です。

当会に入会したきっかけは、ゼミOB会時に教授に言われた一言でした。「地元の稲門会には是非入ってほしい。君たちの人生にとってきっとプラスになると思う」という言葉に強く引かれるものを感じ、帰宅後すぐに当会HPにアクセスをいたしました。部会に関しては、私の勤務する会社がボランティア活動に注力しているということもあって、私自身も長年慣れ親しんできた目黒の街のために何か恩返しができるかという思いで臨んでおります。

当会に入会してはじめて、全体活動、部会活動、そしてHPの見やすさ等まで含めて高いクオリティであることに大変驚きました。学ばせていただくことがたくさんあると感じております。また一方で、先輩方がこれまで大切に運営し、牽引してこられた当会を、今後どのように引き継いでいくのかはとても重要な課題であるかと存じます。私自身仕事柄、この15年、多くの方々の事業承継や相続の問題にかかわり、それぞれのお考えを伺いながら解決に向けてのお手伝いをさせていただいてまいりました。まだまだ若輩者ではありますが、その経験を少しでも生かすこ

とができればと考えております。先輩方が創り上げ、守ってこられた当会を持続的な組織としていくべく、微力ながら尽力していく所存です。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

都立大学駅の思ひで

内山信夫(85年 教育)

【オニクハ ヨイニク ニクヤサン】

都立大の改札すぐ右手、エクセルシオールカフェの場所に昭和50年頃まであった小川精肉店の電話番号呂合わせです。今から60年前、安田講堂と三億円の40年前後を中心に、都立大周辺の点景を



昭和25年当時の駅前商店街の地図

当時の住宅地図や古老(母と叔母と隣のオバサマ)の証言を基に再現してみましよう。今やチェーン系のカフェや飲食店ばかりになってしまった駅前のぐるり一周も、当時は果物屋、ケーキ屋、和菓子屋、牛乳屋、靴屋、花屋、床屋、本屋、瀬戸物屋、肉屋と、正しく伝統的な私鉄ローカル駅の風情にあふれていました。

【ゼロの焦点】

都立大を地勢的に俯瞰すると、目黒区を南北に分ける目黒通りと東西に分かつ東横線が交差する交通と物流の座標ゼロに位置していることが分かります。



昭和35年頃?高架工事中(手前渋谷方向)

東横線が高架になって目黒通りの上を通るようになったのは昭和36年のことですが、それ以前は目黒通りが東横線の上を跨ぐ形になっていました。

目黒通りは江戸時代に目黒不動から八雲の氷川神社や世田谷の九品仏に参詣する道として造られましたが、昭和30年代までは、車一台程度の幅の雑な往来で、東京五輪を目指して片側三車線の立派な幹線

道路に拡張され、今では都心から南西方向に向かう重要な放射線道路になりました。

【幻影の闇市】

闇市というと新宿や新橋辺りの大規模な繁華街を連想しますが、実は都立大学駅交差点付近には「都南共栄百貨店」というバラック建て簡易店舗がズロリと並ぶ東横沿線でも大規模なマーケットがありました。また、駅前の東急ストア（当時東光ストア）両脇に、今でも中途半端な広さのロータリーが広がっていますが、これも「引揚者マーケット」と名を変えた闇市の名残です。二つのマーケットは、30年代半ばの駅高架化と目黒通り拡張を機に「トリツフードセンター」と「トリツセンター」に集約され、どちらも数年前まで存在していました。

なお、現在の「銀だこ」横から目黒通りに抜ける呑川暗渠にも「川の上」と呼ばれたマーケットがあつて、50年頃まで大いに繁盛していたことを記憶しております。

因みにお隣自由が丘の「自由が丘デパート」と「ひかり街」も闇市を起原とする商業施設です。

【ジローとキャノンと王貞治】

都立大のご自慢を三点。

ラーメン党ご最頂「ラーメン二郎」発祥の地は、前述の「川の上」に昭和40年に開業した「ラーメン次郎（二郎ではない）」です。当時はラーメンが今ほど市民権を得ていなかったのもラーメン専門店なんて馴染みが薄く、古老に取材してもまるで記憶にないようでした。

「ニコン」と並ぶ世界最強のカメラブランド「キャノン」のカメラ製造発祥の地も都立大です。昭和8年に麻布で創業した「精機光学研究所」が12年に中根に移転しました。場所は特定できませんでしたが、恐らく呑川沿い緑ヶ丘寄りの「キャノン・グローバル」の地だったのでは？と推定しております。

「世界の王」は、藤山一郎先生（中町在）らと並んで目黒区の名誉区民に名を連ねていますが、その自宅は中根公園の裏手の辺りにありました。現役時代、近くにあったお洒落なカフェバー（死語）「パウンドハウス」の二階を急遽借り切って、並み居る新聞記者達にコーヒーを振舞いながら取材に応じていた姿は、さすが国民栄誉賞第一号の人格者ならではのですね。因みに筆者も八雲堂書店で立ち読みしたり、駅前の屋台でラーメンをすすったりする王選手に遭遇したことがあります。その太腿の太いこと太いこと。ご本人は数年前、福岡に転居してしまいましたね。残念

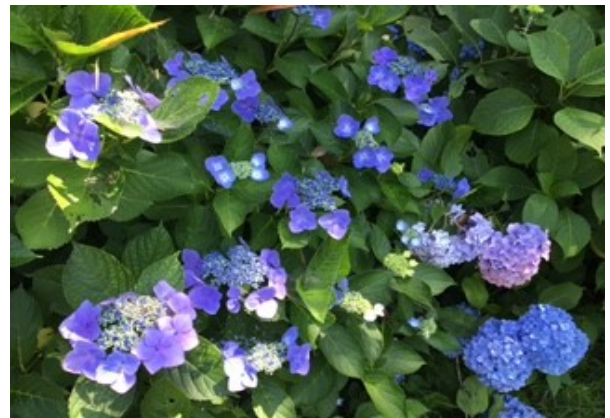
まだまだ書きたいことは山ほどありますが、字数が迫ってきたのでこのあたりで。
では、またいつか。あなかしこ あなかしこ

会員ギャラリー

佐伯友子（早大大学院在学中）

私がこの写真を撮った理由:今年の6月は雨というよりも暑さが際立つ日々でした。そんな厳しい環境でもいつも通り咲いている紫陽花がとても美しく、貴い存在に感じられました。暑さのなかにも涼しさを届けてくれた6月の風物詩です。

構図:日本固有のガクアジサイとセイヨウアジサイの両方が見られる部分で、藍色から水色、藤色、青色といったグラデーションを写真に収めました。出来栄:数枚撮ったなかで、この写真は気に入った1枚です。



ガクアジサイとセイヨウアジサイ
撮影場所:佐倉城址公園菖蒲園脇

お悔やみ申し上げます

(敬称略)

小倉 利允（64年理工） 2025年6月26日(83歳)

事務局から

目黒稲門会のホームページを更新しました。

更新後は以下のURLから閲覧ができます。

<http://me96tomon-waseda.la.coocan.jp/new/>

お気に入りに登録の方は変更をお願いします。

目黒稲門会年会費の納入のお願い

会報107号に同封した年会費納入をお願いします。

校友会年会費の納入のお願い

目黒稲門会正会員は早稲田大学校友会の会員資格を有する方となっておりますので、目黒稲門会年会費に加え、校友会年会費の納入をお願いします。

編集後記

連日の「酷暑」で気温40度にも驚かなくなりました。30年近く前の赤道直下のジャカルタも暑かったのですが、朝夕は涼しく、寝具にタオルケットが必須でした。この「異常気象」が平年並みとなり、人もそれに合わせて生きて行くのでしょうか。（細谷記）



年会費納入
方法はこちら